

「効果の見える治水事業」
高知県 鏡川（高知市）の治水事業

『鏡川（神田川）広域河川改修事業』



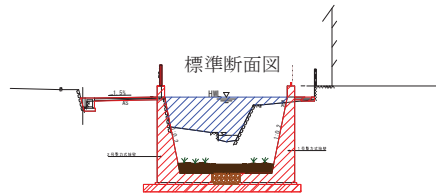
高知県高知土木事務所長 吉村 浩司

神田川は高知市の市街地を横貫する二級河川鏡川の右支川で、流域面積13.09km²、流路延長 6.1kmの小河川です。神田川の流域は鏡川右岸平地部に位置し、古くは高知市内を洪水から防ぐための遊水地機能を持つ耕地でありましたが、近年、高知市への人口集中化に伴う宅地化等が著しく、加えて河床勾配も緩やかで低地が多く、洪水時の鏡川の高い水位が影響し、昭和50年8月の台風5号や昭和51年9月の台風17号では甚大な被害が発生しました。その対策として、鏡川本川及び神田川中下流部については、激甚災害特別緊急事業や高潮対策事業等により改修を行い完了しておりますが、神田川上流の針木地区についてはまだ未改修区間が残っており、平成13年5月豪雨、平成16年10月の台風23号、平成22年10月豪雨では浸水被害が発生しています。

このため県では、広域河川改修事業により流下能力が不足している上流部の未改修区間について現在改修を進めており、未改修区間は残り200m程となっています。今後も引き続き、関係機関や地元住民のみなさまの協力を得ながら早期完成をめざし整備を進めてまいります。



H22.10 豪雨浸水被害状況



効果の見える治水事業
自然災害に備え市民とまちの安全を高める。



高知市長 岡崎 誠也

高知市は、四国南部のほぼ中央に位置し、市域面積は309.22km²、人口約34万3千人の市です。市の北方には急峻な四国山地があり、市域北部の北山に源を発するシンボル鏡川の下流域を中心に都市が形成されています。

市街地の平野部は鏡川や国分川などによって形成された土地ですが、海拔ゼロメートル地帯も多く、ゼロメートル区域は約7km²に及んでいます。

本市は太平洋に臨む地形的な特徴から、台風の進路にあたり、年によっては3,000mmを越す降水量があります。

これまでに経験した風水害の特性を分析し、ハード・ソフト両面から水害に強いまちづくりを進めています。

市の西南部に位置する朝倉・鴨田地区は、急速に市街化が進み、昭和50年、51年の連年台風では集中豪雨とともに、神田川を中心に高潮災害により甚大な浸水被害が発生しました。

このため、激甚災害特別緊急事業等により抜本的な河川改修が進められ、浸水による被害は飛躍的に解消されてきており、関係者の皆様に感謝申し上げます。

都市の防災力の強化に向けて、気候変動などに伴い多様化するゲリラ豪雨災害や南海地震などの大規模災害に対応するためには、被害を最小化する減災対策が重要となります。

現在、市民の皆さんとともに「災害に強いまちづくり」をめざして、防災リーダーの育成や防災意識の向上を図るとともに、地域防災力の向上に取り組んでおります。

巨大地震などの災害発生時に迅速かつ的確な対応を可能とするため、さらなる災害対応能力の強化をめざします。

